



テロ事件、平和憲法を活かしてこそ

バン格拉デシユの人質事件で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りします。

ヨーロッパとの軋轢

ISは「十字軍諸国の市民を殺害し今後も攻撃は続く」と声明。

これを論ずる前に、まず、ヨーロッパと中東の歴史をひもとこう。

十一世紀末、ヨーロッパ諸国の十字軍は中東遠征。住民を大虐殺。十九世紀頃からオスマントルコの衰退に乗じ、

中東を植民地支配。勝手に国境を決め、抵抗勢力は抹殺。こうした歴史を忘れないで、現代を眺める必要がある。

安倍中東訪問で

二〇一五年一月安倍首相はエジプトにて

「ISIL(イスラム国)と闘う周辺各国に、

総額で二億ドル程度、支援を約束」と強調。ISとの敵対を明確化。今回のテロは起こるべくして起きたのだ。

日本のとるべき立場

武力で抑えられた人は、強力な武器が足りなかつたと考えるだけ。

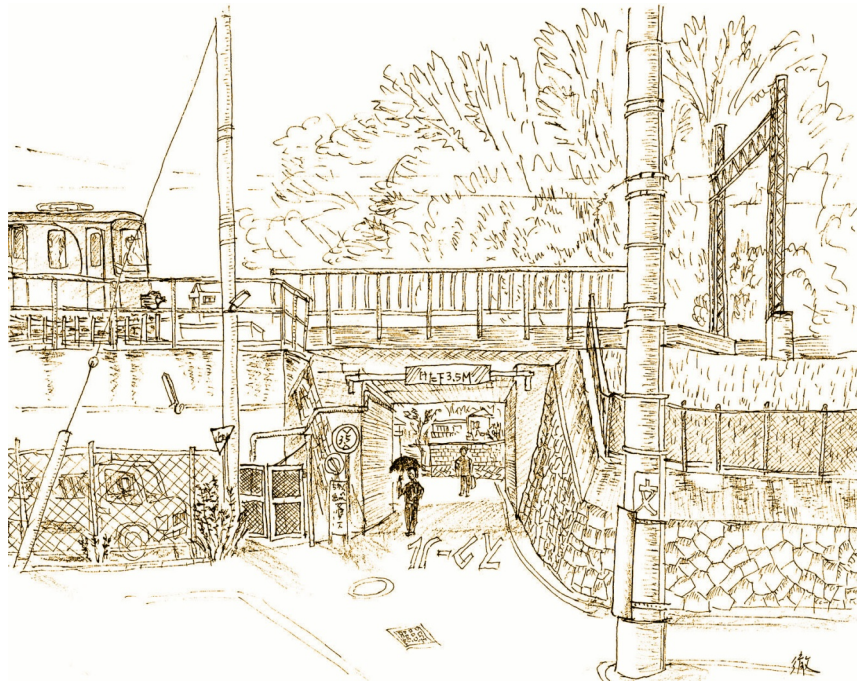
爆撃してもしても、自爆テロなど、新しい手段で対抗する。戦争法で武力介入すれば、日本がテロの標的になるだけ。

戦争法を廃止し、世界に誇れる「武力で国際紛争を解決しない」平和憲法を活かすのだ。そうすれば、どんな国の間に立つても平和裡に問題を解決できる立場に立てる。

イスラム教は本来寛容な宗教。平和でこそ解決の道は開ける。皆さんはどう思われますか？

京急のガード

横浜市南区井土ヶ谷



井土ヶ谷から、永田山王台に向かつて歩くと、京急急行をくぐるガードがある。鋼鉄製だから電車が通るとうるさい。防音版で覆えば少しは静かになると思うのだが・・・。

五、六十年前はこのガードの先は田畑と山林。春には土筆をつみ、おたまじゃくしを捕まえていたという。

明治期、日本からの輸出品の一つは陶器であった。陶器は重いので、港のある横浜で作られていた。

後に芸術院会員になった井上良斎と云う陶芸家も、陶器壱袋に携わっていた。当時は今の横浜駅近くに窯場があった。しかし、関東大震災で被災。窯場をこのガードの奥に移した。その登り窯は「永田の登り窯と自鼻を守る会」によって保存されている。